

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称		令和7年度 第2回福津市観光産業活性化協議会
開催日時		令和8年2月4日（水）午後3時00分～午後4時50分
開催場所		福津市立図書館 2階 研修室3
委員名		（1）出席委員 永松毅文 小役丸秀一 紺屋良治 塩川浩一 浄見讓 小島恵 大隈信彦 山口尚志 （2）欠席委員 花田千賀子
所管課職員職氏名		経済産業部長 高山康和 観光振興課長 波多野哲平 観光振興係長 村上尚寛 観光振興係長 緒方康裕
会 議	議 題 (内 容)	1. 開会 ・会議録の作成方針の決定 2. 議事 （1）観光基本計画に基づく取り組み状況について 3. その他報告 ・公募委員の募集について 4. 閉会
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	
	傍聴者の数	1 名
	資料の名称	資料1 福津市観光産業活性化協議会委員名簿 資料2 観光基本計画に基づく取り組み状況
会議録の作成方針		<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録
		<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
		<input type="checkbox"/> 要点記録
		記録内容の確認方法 会長が指名する委員による確認
その他の必要事項		

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 開会

・会議録の作成方針の決定

事務局 : 福津市附属機関の会議の公開に関する要綱、会議録の作成方法について説明。

決定事項: 会議の公開。事務局により会議録案を作成し、委員による確認の上で会議録の完成とする。

永松会長: 出席委員のうち、名簿順に会議録の確認依頼をすることの提案。

決定事項: 会議録の確認は、小役丸委員及び塩川委員とする。

2. 議事

(1) 観光基本計画に基づく取り組み状況について

(事務局) 「資料1 観光基本計画に基づく取り組み状況」基本方針1. 国内外の人が何度も訪れたい魅力をもつ 基本施策(1)～(5)に基づき説明。

(永松会長) 観光基本計画に基づく基本施策(1)の各取り組み状況について、委員の皆様からご意見等お願いします。

(山口委員) 事業の中で主催者が成功したと思うイベント、令和8年度も続けていきたいと考えている取り組みはあるのかお伺いしたい。

(事務局) DMOと観光協会が実施してきたイベントは福津の魅力が活かされており、それぞれのイベントで成果が表れている。地道な積み重ねが福津市のイメージ付けに繋がると考えている。これまで実施されてきたイベントは今後も続けていきたい。

(小島委員) 観光協会では「いちごウォーク」と「ふくつスイーツフェア」を主に開催している。参加者の半数は市外から来ていただいております。福津を知るきっかけになっていると思う。昨年度の改善点を活かして今後もイベントを続けていきたい。

(永松会長) 改善した点はどのようなところですか。

(小島委員) 来場者のアンケート結果を基に今年度はスイーツを楽しんでいただくだけでなく、観光スポットで写真を撮れるように当日配布するマップの変更を行った。来年度は新たな参加店舗や観光名所の拡充を図り、イベントを続けていきたい。

(永松会長) DMOは食のフェアで実績が増えてきていますが、どのように感じていますか。

(浄見委員) 実績数字の通り例年よりも実績はよかった。新たに参加していただける店舗も増えたため効率もよかったがもっと爆発的に人気が出るような仕掛けをしたほうが良いと常々思っている。もう少し取り組み方をアップグレードする必要がある。福津で鯛茶漬フェアをやっているというイメージが福津の中で広がっていない。ポスターだけでは目に留まりづらいため、バナー広告やSNS発信をやっていくなどの方法も取り入れたほうが良い。全てのイベントにおいて認知度が低いと思う。

- (永松会長) (昨年実施の) JR九州の「駅長対抗ご当地麺総選挙」では、福津のトマトラーメンが入賞したが、告知不足により認知が十分でなかった点が残念だと感じた。
今後もDMOとしては前向きに積み重ねて取り組んでいきたい。告知の仕方は、2種類に大別される。ホームページなどユーザーが自ら情報を取得しに行く「プル型」と、発信側が市場やユーザーに対して知らせに行く「プッシュ型」。JR九州ではメルマガ発信を活用しており、登録会員に情報を発信することができる。インスタグラムでもフォロワーに対して知らせたい情報をこちらから発信することができるため、ホームページと併用してプッシュ型の告知を行うことで食のフェアも市場に対して認知を得られやすくなると思う。
そのようなことも含めて主催者が捉えている課題について、委員の皆様からのご意見等があればお願いしたい。
- (小役丸委員) 令和7年度「いちごウォーク」の参加者数は1回の開催で約9名程度の参加だったのででしょうか。
- (小島委員) 天候の関係もあり参加者数が少なかった。事業者自体も少ないため、参加人数自体も増やせない。
- (小役丸委員) いちご狩りだけしてそのまま帰ってしまうとそれだけで終わってしまうので、私のところではいちご狩りの後にいちご大福作りを行っている。いちご狩りに加え、様々な体験を組み合わせることで幅広い店舗に経済的効果が生まれると思う。
「鯛茶づけフェア」と「いちごウォーク」を組み合わせるのも面白い。いちご狩りも1日10人程度受け入れることができれば、1か月で約300人程となり、成果があがると思う。
バスやタクシーを利用した福岡発着ツアーを企画するのも良いと思う。京都ではタクシーを利用した京都旅が流行っている。地元にあるものを使ってツアー企画ができれば良い。待っているだけでは集客につながらないため積極的に引っ張る方法があれば事前に準備できる。仕掛けを作っていくことで、幅広く魅力を発信できる気がする。
- (大隈委員) 小役丸委員の意見に賛成。観光協会とDMOが併存しているのは他地域にはない仕組みだが役割分担はどうなっていますか。企画をする際に誰が発意し実行するかなど、これまではどのようにしてきましたか。
- (浄見委員) 元々観光協会と商工会があり、そこに新たにDMOができた。全てのものを総合的に広報することがDMOの仕事。色んなところ、色んな人との横の繋がりを大事にし、横に連絡をしながら物事を進めていきたいと思いますというのが一昨年度～昨年度の協議会としての意見。今年からDMOとして何か1つにしたお祭りをやっていかなければいけないことが宿題として残っている。DMOが旗を振らなければいけないのが現状だと感じているし、そのようにしていくつもりである。
- (大隈委員) 行政を含めてツアー企画を作った場合、どのような形で進めていくのでしょうか。

- (塩川委員) DMO も観光協会も旅行業の免許を持っている。過去も福間駅発着ツアーを企画したことがあるが、発信力が足りなかった。行政からも補助を受けて1人当たり1,000～2,000円のジャンボタクシー割引を実施したが浸透しなかった。福津には宿泊施設も少なく宿泊せずに駅で解散してしまうため、集客を見込むには難しいのが現状。
- 「スイーツウォーキング」についても、観光協会会員のお店を活気づけるために計画しているが、観光協会だけでは会員限定で開催せざるを得ない。イベントを実施するには音頭取りが一番必要。参加していない福津の飲食店をたくさん集めて大きい話にまとめ上げていかないと、会員限定で開催しても弱いと思う。多くの飲食店を巻き込むことで盛り上がり期待できる。行政の後押しも必要。市を挙げた食のイベントとして、たくさんの飲食店に声をかけるくらいの姿勢で取り組まなければ現状からの脱却はできないと思う。予算がある場合は実行委員会を設けて、役割分担を明確にしたほうが良い。
- (永松会長) 今年度から交通事業者として紺屋委員に加わっていただいています。JR九州は旅行業を持っており、ツアー企画が可能な事業者ですが、これまでに出了された意見を踏まえて、どのようにお考えでしょうか。
- (紺屋委員) 私自身は旅行業に携わったことはないが、会社とツアー企画についてやり取りを行うことは可能。ただし、内容を整理した企画の提出が必要。JR九州が実施する場合には、8名以上の参加者と切符をセットで購入する形となる。福津市だけに限定した場合では団体客の増加にはつながりにくいと思う。
- (永松会長) ツアー企画以外でも、福間駅を媒体としてDMOや観光協会が開催するイベントの情報掲出・発信などをご協力いただける可能性がある。プラスの方向に活かすことができれば今後の広がりにつながると思う。これまでの開催実績を生かし、令和8年度はよりイベント・フェアの価値を高め、新たに組み組めることを進めていけたら良いと思う。
- 次に、観光基本計画に基づく基本施策(2)の各取り組み状況について委員の皆様からご意見等お願いします。
- (山口委員) 商品開発についてはどういう状況ですか。
- (事務局) 商工振興課から「いいざい」に業務を委託する中で、業務の1つとして商品開発を行っている。令和5年度は「イカの漬井」を開発した。鯛に次ぐ商材としてイカに着目し、福津の食の価値を創出した。令和6年度は福津産の柑橘類の皮を砂糖漬けにし、チョコレートでコーティングしたオレンジットを含む5品目の商品を開発している。JALと共同で「空飛ぶあごだし」の商品開発も行っている。販売実績については現時点では持ち合わせてはいない。
- (永松会長) 福津の目玉となる特産品の発掘と磨き上げは必要不可欠だと思う。事務局には、商品開発している事業者へ直接、詳しくヒアリングをお願いしたい。今後、開発商品が福津の目玉として売れるようになって欲しいと思う。

- (浄見委員) この件だけではなく、商品を売るにはどれだけ認知されるかが大事。まずは商品を知っていただくことを考えないといけない。福津市の色々なものを紹介しないと集客に繋がらない。宮地嶽神社ではSNS発信を大事にしている。SNS発信をすることで多くの人に情報が届き、関心をもった多くの人に訪れてもらえる。SNS発信に一番力をいれるべきだと思う。情報発信することで商品販売やイベント等、すべての取り組みに繋がると思う。
- (紺屋委員) (昨年 JR 九州が主催した) 「駅長対抗ご当地麺総選挙」では、SNS発信を積極的に行った。色々な方に見てもらえて福岡駅が決勝戦に進出できたと思っているので SNS 発信は大事だと感じた。
- (浄見委員) 市職員が SNS 発信を行うのも良いと思う。より多くの人に見てもらえるし、認知度が上がる。
- (山口委員) 福津の魅力をボランティアで発信してくれる方を募集したら居ると思う。
- (浄見委員) ボランティアの場合、継続が難しくなる可能性がある。
- (紺屋委員) 実現化するかわからないが、皆様が持っている情報を集約し、その情報を全国へ発信していけるのが一番理想的だと思う。
- (永松会長) 委員の皆様の意見を総合すると、各課題に共通して、SNS を活用した情報発信が重要ということが言える。来年度以降、「情報発信の強化を図るべき」ということが、協議会として市に提言していける内容だと思う。
- (事務局) 次に、観光基本計画に基づく基本施策(3)の各取り組み状況について皆様からご意見等お願いします。
- (事務局) 新原・奴山古墳展望所案内業務について。古墳群の立地としては市内から少し離れたところにあり、文化財課で現在古墳群の整備をしている。ボランティアガイド会による来訪者への対応は古墳を活用した観光振興への施策の展開に非常に有益である。土日祝日を中心に展望所案内業務に従事していただいております。来訪者に対する観光案内及び説明を行っていただいております。1日約40名の方にお越しいただいております、全国各地からお越しいただいておりますと報告を受けています。
- (大隈委員) 遠方からお越しいただいた方への説明等を行っていただいております。観光受け入れ体制において必要不可欠な存在であると考えています。
- (大隈委員) 実際に新原・奴山古墳群の展望所案内業務をしているが、遠方からは4分の1の割合でお越しいただいております。今は冬場で来訪者は少ないが、遠方からの来訪者は事前に計画を立てて来られるため、天候が悪くても来ていただいております。旅行会社からガイドの依頼はあるが、宮地嶽神社に流れているように感じる。来訪者の全体件数に大きな変動はないものの、古墳群については何か対策が必要だと感じている。
- (永松会長) 事務局がヒアリングして把握している1日あたりの人数だけではなく、実施回数と合計人数の数値があるとより分かりやすいと思う。

- (大隈委員) 年間の実施回数は130日。コスモスが咲く秋の時期や、菜の花シーズンの2月・3月は平日も案内業務を行う日がある。
- (永松会長) 実施回数だけではなく、合計人数も数値としてあった方が良いと思う。1日あたり約40名以上の来訪があることは高い成果が出ていると言える。
観光協会が開催予定の「ふくつの古墳まつり」の準備状況はどうなっていますか。
- (小島委員) 私も SNS 発信が弱いと感じており、フォロワーを増やすのはとても大変だったが古墳まつりは来場者が少ないと聞いたため、古墳まつりについての SNS 発信に力を入れている。1度の発信だけではなく回数をわけて発信している。イベントの内容の充実も意識しながら進めていきたいと考えている。
- (永松会長) 過去2年の古墳まつりは2日間で設定されていましたが、今年は1日のみの開催になるのでしょうか。
- (小島委員) 今年はカメラホールが使えないということもあり、1日限りの開催ではあるが、これまで昼までだったイベントを夕方までに延長し、ご来場の皆様により長く楽しんで頂き、幼児向けイベントやその他の催しの内容も充実させていきたいと考えている。
- (永松会長) 「福津バル」の実績はどうでしたか。
- (浄見委員) 今年度は福間海岸で開催した。本来は福津バルなので福津のすべての海岸で行わなければならないが関係者間でそれぞれの立場や思いがあり、なかなか一つにまとまりにくい状況の中の取り組みとなった。DMO としては、もう少し違う形で実施できるような方向性で考えている。
- (永松会長) チケットは1,446枚利用となっていますが、約1,400人が来場されたということでしょうか。
- (浄見委員) チケットは一人が何枚でも購入でき、一人が約10枚以上購入したと考えると、来場は関係者を含め100人程度で、大きな成果には至らなかった。今後はやり方を変えないといけないと思っている。
- (永松会長) 今年は福津バルの開催予定はありますか。
- (浄見委員) 今年は違う形で開催したいと考えている。DMO として旗を振って頑張らないといけないと思っている。観光協会やいいざい、商工会、ボランティアガイドの皆様の協力をいただきながら、地元をまとめたお祭りの開催を目指して準備を進めている。宮地嶽神社の秋季大祭や光の道シーズン、観光協会主催のふくつフェスティバルと日程が被らないように DMO の中で日程調整を行い、福津バルと合同開催の方向で進めていく。
- (塩川委員) 観光協会は観光案内と無料のジャンボタクシーの案内を行った。遠方から来られている方もおり好評だったが、来場者からは「お店が人気で入れなかった」・「メニュー提供が終わってしまっているお店もあった」という意見もあった。今年は時間をかけてPRを行い、一緒に良い企画にできたら良いと思う。
- (永松会長) 次に、観光基本計画に基づく基本施策(4)の各取り組み状況について皆様からご意見等お願いします。

- (小島委員) トレッキングについては想定よりも多くの申込があった。天候に左右されるのが問題だが宮地嶽神社を知っている方も多く、宮地嶽神社にも行けて、登山が好きな方や年配の方を含め、多くの方が参加されるイベントだと感じた。
- (塩川委員) 元々の出発は太宰府の宝満山であり、宝満山で開催された際は参加者が多かったため、宮地嶽神社と宮地嶽のルートで始めた。参加者の定着率は高いと思う。コースが大変な区間もあるがガイド会の方に協力をいただきながら開催している。
- (永松会長) 今年の開催についてはどう考えていますか。
- (小島委員) 参加者の8割が市外からの参加であり、予約も順調に埋まっている状況であるため、今後も継続的に実施していく予定。
- (塩川委員) モニターバスツアーはコロナで来訪者が減少する中でズームを活用して旅行気分を味わっていただくために実施した取り組みであった。福津には大きいホテルはないが、民泊施設が充実していることから、民泊に宿泊し、宮地嶽神社を訪れる旅行商品があっても良いと思う。観光協会としては、会員店舗の紹介に限られるため、会員以外の店舗へ積極的に声掛けをすることが難しい。会員以外の店舗にも声掛けをして何か取り組みができたら良いと思う。
- (永松会長) 観光協会の会員は何店舗くらいありますか。
- (塩川委員) 会員事業者は300弱。福津の事業者を幅広く含んでいるため、観光とは直接関係のない分野の事業者も多い。観光協会が何か開催するときは会員限定になってしまう。
- (永松会長) 宮地嶽自然歩道トレッキングは遠方からお越しいただいており、固定ファンもいると感じる。
- (小島委員) その際に観光スポットも紹介できたら良いと思う。
- (大隈委員) 「福津めぐり」のようなイベントを増やしていければ良いと思う。文化財に指定されているものが3つもあるため、それらを活用したミニツアーを年に数回企画するのも良い。新しいところで考えたら、恋の浦海岸やくぐり岩はどうか。現在は通れないようになっているが、今後は通れるようになる予定はありますか。
- (事務局) 民間の土地を通らないといけない場所。土地の所有者と市とで調整している。使わない期間について通らせていただくことと聞いている。
- (大隈委員) 整備することはできないだろうか。新たな観光資源を作ることになれば、恋の浦海岸やくぐり岩はキャッチコピーとしても良いと思う。予算や時間はかかると思うが、メインの1つとして考えても面白いと思う。
- (永松会長) 今後もトレッキングと福津めぐりは継続するとともに、大隈委員から意見があった新たな観光資源も加えていけると良いと思う。観光基本計画に基づく取り組み状況(5)のドラマロケ候補地等の情報提供について実際に働きかけを行ったことはありますか。
- (事務局) こちらから積極的に各メディアへ情報発信を行うというよりも、メディアから問い合わせや相談があった際に回答をしている。

- (紺屋委員) 今年度はメディア等からの問い合わせはありましたか。
- (事務局) ドラマの具体的な内容やメディアに関する情報は提供されていないが、「使用されていないコンビニ跡地がないか」という問い合わせがあった。
- (紺屋委員) 問い合わせは福津市のみに届いているのですか。それとも全体に向けて発信されているのでしょうか。
- (事務局) ピンポイントで問い合わせがくるというよりも、複数の自治体へ情報を発信し、その中から条件に近い回答を選定しているのだと思う。
- (事務局) 福岡市が事務局をしている「福岡フィルムコミッション」という映画撮影等を県内でコーディネートする団体があり、多くの場合、そこからこのような撮影を行いたいという問い合わせが、登録している自治体に向けて発信されることが多い。福津市は「光の道」や「かがみの海」のように良いロケーションの画像をPRに活用しているということもあり、その情報から撮影をさせてほしいという問い合わせがくることもある。
- (浄見委員) 宮地嶽神社にも取材や撮影依頼の問い合わせがほぼ毎日来ている。取材や撮影依頼の問い合わせに対してはお断りせず対応している。その結果、メディア関係者の間で宮地嶽神社は協力的であるという印象が広がり、来訪者の増加にも繋がっていると感じている。そのほか、行事開催時には東京のキー局へ情報提供を行っており、それをきっかけに問い合わせいただくこともある。
- (永松会長) 情報提供は非常に大事だと思う。「JR九州ウォーキング」について紺屋委員はどう感じていますか。
- (紺屋委員) 「JR九州ウォーキング」に関しては、福岡駅は市観光振興課に協力をいただいて開催している。昔はJR九州の社員が受付とすべてのコースに立っていたが、現在は地元に対応していただいております。JR九州の社員は受付と緊急時の対応を行っている。観光振興課にも協力をいただきながら、理想形でモデルケースになっていると思う。弊社の本社も「良い取り組みであり、協力的」という印象を持っている。古賀市では開催していないため今年は古賀市にも開催を打診した。古賀とはコースの提案や情報共有を行っているため同じような形になってくると思う。ウォーキングは春と秋の年2回実施しており、参加者が翌日ゆっくり休めるように土曜日に設定している。市内の方だけではなく、市外からも多数お越しいただいております。30年以上続く、とても良いイベントであり、今後も継続していきたい。コース変更については課題を感じている。
- (永松会長) 途中で特産品やブースの設置をするのも良いと思う。
- (紺屋委員) コース途中のビーチハウスで「めんべい」の販売など、協力店舗のクーポンを発行している。春は「鯛茶づけフェア」や宮地嶽神社の「菖蒲まつり」に合わせて開催しており、見どころをうまく絡めながら取り組んでいる。
- (永松会長) 開催期間が「鯛茶づけフェア」や「イカフェア」と重なっているため、連携するのはとても良いと思う。商品開発でも新商品

- や来場者にプッシュしたいものがあれば、発信機会のひとつとしてうまく生かしてあげたら良い。
- (紺屋委員) 企画自体は早い段階で決めないといけないが、店舗の特典などがあれば当日配るマップに載せられるので、1か月前くらいに教えていただければ掲載することはできる。
- (永松会長) 「ふくつフェスティバル」は実施してみてどのように感じましたか。
- (小島委員) 来場者アンケートを重視して実施しているが、結果として市内から6割、市外から4割の来場。初日は大雨の影響で来場者も少なかったが、今回は初めて「餅まき」を取り入れたことで、多くの方にお越しいただき、来場者の増加につながったと感じる。地域密着型としては福津の事業者との連携の仕方がやや浅いと感じた。来年度は事業者を積極的に巻き込み、地域のお祭りとしても賑わいを高め、市外から来られた方にも福津を知るきっかけになるイベントとして開催できたらと考えている。
- (永松会長) 来場者1万名ほどのように算出されたのですか。
- (小島委員) このイベントはイオンモールレストラン街の出入口にあたる駐車場で開催しており、レストラン街からその入口を通過した人数をイオンモールに算出していただいた。今年も「ふくつフェスティバル」を実施する予定で考えている。
- (永松会長) 他の委員の皆様から他にご意見等がありますか。
- (全委員) (意見なし)
- (永松会長) 委員の皆様からいただいたご意見を全体的に統括すると、現在取り組んでいる事に関してはそれぞれの主催者が考える改善点はあるものの、継続的に続けていくべきだと考える。全体に通じることとして、認知をより高めるため、SNS等を活用したプッシュ型の発信により認知を広めていくことが大事という意見があった。これらの意見を踏まえ、本日の「基本方針1. 国内外の人が何度も訪れたい魅力をもつ」に関する委員の皆様からのご意見としてまとめさせていただきたい。

3. その他報告

公募委員の募集について

- (事務局) 前回の会議で「公募委員を増やしてはどうか」とご意見をいただいていた件に関し、総務部総務課に確認をしたところ、令和8年度の公募委員の募集については終了しており、現在公募委員の募集に対する申し込み状況についても当協議会ならびにほかの附属機関も定員割れをしている状況。追加公募を行っても立候補いただける可能性は低い状況であることを確認している。委員の皆様のご意見の本質は、「1人でも多くの方からの意見を聞き、議論をさらに深めていきたい」ということと考えている。いただいたご意見を踏まえ、令和8年度から新たに1名委員をお迎えするための準備を行っていく。事務局の考えをご理解いただいた上で、委員の皆様から候補者の情報があれば3月中旬までにお知らせさせていただきたい。公募委員へ小論文の提出を求めている件に関しても協議会の皆様からご意見をいただいたことを総務課に報告している。

(山口委員) 関連はないかもしれないが別の協議会に出席した際に夕陽館が今年10月営業開始と聞いたが、それ契機に観光として集客ができるのではないかとという提案が次回の協議会でできれば良いと思う。もうひとつは昨年も協議会でお伝えしたが、福津に乗馬クラブがあるが集客をしたいという希望はあるのだろうか。乗馬クラブの方を協議会の候補者として出席させるのも良いと思う。せっかく乗馬クラブがあるのにと感じてしまう。次回の協議会にて夕陽館と乗馬クラブの件について回答を頂きたい。

(永松会長) 夕陽館については新しくできる施設であり、観光としてどのように活用していくかについて、第3回目以降の協議会で協議を進めていけたら良いと思う。次回は大項目2と3についてご意見を伺いたい。議案と報告については以上となります。ありがとうございました。

7. 閉会